

栗東市立金勝小学校の取組

～活動内容・成果の「見える化」で安全体制を推進！～

学校名：栗東市立金勝小学校
所在地：栗東市御園 911-1
学校規模：学級数（20学級）・児童数（508名）・教職員数（28名）
スクールガード金勝の元気隊
スクールガード登録数：（61名）【平成22年度】

保護者を中心としたPTAとの連携で組織！

毎年、年度当初に学校だよりや保護者宛お知らせを通してスクールガードの募集を行っている。同時にPTAの本部役員からも地域の皆さんに声をかけ、募集している。ありがたいことに、保護者をはじめ、民生児童委員、地域の皆さんが趣旨に賛同し、毎年一定数の皆さんに参加いただいている。本校におけるスクールガード登録者の内訳は以下のとおりである。

保護者	29人
民生児童委員	10人
地域の方	22人

スクールガード発足時は8人だったが、翌年は16人と徐々に増え、ピーク時は100人を超したが、現在は「実際に動ける人」に絞っているため、少なくなっている。

活動の内容をより明確に！

本校におけるスクールガードの主な取組は以下のとおりである。

- (1)児童の登下校時において、通学路の安全確保のための立番やパトロールの実施。
- (2)下記の項目について、通学路の安全点検を実施する。
危険物等の有無
危険箇所の確認（交通に関する事柄も含む）
「子ども110番」の位置の確認
- (3)必要に応じて、教職員と連携をはかり、校内の安全パトロールを実施する。

これは、スクールガードに配布している名札にも明記している。特に「子どもを不審者から遠ざけること」「何かあったらすぐに110番通報すること」を常日頃お願いしている。何も起こらないことがスクールガード活動の最大の成果である。

だからこそ、このように活動内容を明確にすることが「やりがい」にもつながることと考える。

活動内容を見える化！

1. スクールガードを見える化！

毎月の「学校便り」により、児童の下校時間を知らせ、学校とスクールガードとの連携を図り、学区内の地区ごとに2～3人による下校時の見守りを行っている。

名札と黄色の帽子的着用はもちろん、黄色の旗を持ち、黄色の上着を着て遠目からも目立つようにしている。また、PTAからの支援を受け、背面に「金勝の元気」と書いた冬季用のジャンパーも購入した。



なお、登校時には地区別PTA登校指導当番の協力を得て、交通指導も行っている。

PTA会員全員に「パトロール中」のプレートを配布し、自転車の前かごや自動車の前後に装着している。

2. 留意事項を見える化！

無理をせず、長く続けていただけるよう、留意事項については適宜見直しを行い、共通理解を図っている。現時点では、以下のことを共通理解していただいている。

《パトロール上の留意点》

防犯パトロール用ジャンパーを着用すると同時に黄色の旗も携行する。

徒歩又は自転車での指導（帯同下校も可）を行う。

自動車へ乗せての下校は原則として禁止する。

防犯の抑止効果を期待し、徒歩や自転車で買い物や散歩をする際にもできる限り防犯ジャンパーを着用する。

《不審者への対応》

まず、子どもからできるだけ遠ざける。（距離を保つ。）

大きい声で挨拶（「こんにちは」「おはよう」「こんばんは」など）をする。

たとえ未遂であっても 110 番通報をすると同時に、学校へ連絡する。

本校の安全教育の推進！

スクールガードの活動とともに、学校としても以下のような安全教育を行い、地域ぐるみの安全体制の整備にあたった。

児童を対象に不審者に遭遇した場合の対処法や回避法の指導

「自分の命は自分で守る」指導の習慣化

「いかのおすし」の指導の徹底

児童と保護者、教職員による、通学路上にある「子ども 110 番の家」の確認とあいさつまわり

通学路の安全面の定期的な点検

県教委スクールガード・リーダーによる巡回指導（教職員、及びスクールガード、保護者対象）

地域や駐在所との連携！

地域の情報が集まるコミュニティセンターと駐在所。登下校のパトロールはもちろん、安全に関わる情報があるとすぐに学校に連絡がある。そのため、教職員も早く対応できる。また、青少年育成部会が中心となり、児童から標語を募集して、20 枚の地域安全啓発看板を作成していただいた。



児童の感謝の言葉で成果が見える化！

日々の活動の成果が「何も起こらないこと」という、見えにくいものであるので、できる限り見える形をつくり出したいと考えた。

そこで、日頃よりスクールガードの皆さんに対して感謝の気持ちを持ち、それが態度に表れるように学級指導を適宜行った。

また、毎年開催している「子ども 110 番通報訓練」では、スクールガードの皆さんにも参加していただき、代表児童がお礼の手紙を読んだ。

成果と今後の課題

活動の「見える化」を意識して地域ぐるみの学校安全体制を構築したことによって、次のような成果が見られた。

スクールガード活動による不審者出没抑止力の向上

危険箇所を事前に把握した効果的な巡回指導の実施

児童の挨拶・歩行マナーの向上

また、その反面、以下のような課題も残った。

近隣の市町村との情報交換の手段

「子ども 110 番の家」協力者との連携

防犯グッズ（名札・腕章・帽子・ジャンパー等）の更なる充実

おわりに

学校と地域のつながりがあることで、スクールガードというボランティアに参加して下さる方が多くなる。この人たちを発掘し、集め、活用できれば、子どもたちの強力な応援団となって下さる。本校はPTAを中心とした組織ではあるが、実際に中心となって活動して下さる地域の方の力が欠かせない今、その高齢化が課題となってきている。今後はさらに地域とのつながりを広め・深めて、新たな応援団を増やしていきたいと考える。地域とつながり、防犯力や組織力を高めることが、子どもの安全・安心には必要不可欠である。

安心・安全はただ待っているだけでは確保できない。普段からの地域ぐるみの積極的な取組によって、はじめて安心・安全は得られるものである。今後とも、スクールガードの活動をさらに継続・拡大していくために「活動の見える化」をめざして学校安全体制の整備・充実にあたりたい。